

人権同和教育委員会

1 研究テーマ

人権を尊重し、あらゆる人権問題を解決する意欲と実践力を身につけた児童・生徒を育てるための指導のあり方

2 研究課題

平成16年度の研究では、児童の意識の流れに沿って調査したり取材したりして、さまざまな体験や経験を通して学ぶことのすばらしさが明らかとなった。本年度は中学校において、経験や体験を通じた、人権同和教育の実践のあり方を東中学校の実践から学ばせていただいた。

3 指導の実際

東中学校では「よりよい人間関係作り」を重点にすえて、体験や活動と結びつけた人権同和教育をすすめようとしている。1年生の「峰の原自然体験学習」、2年生の「職場体験学習」、3年生の「交流学习」で人権同和教育の実践を進めている。実際に体験や活動を通して学習することは、人権問題を解決する実践力を身につけるための重要なポイントであり、テーマにせまっていけるものであると考える。

2年生は進路学習の一環として7月に職場体験をした。事前学習や2日間の実習、事後の学習を通して、仕事をしていく上で大切なこと「礼儀」「責任感」「協力」の3つの視点から、相手を大事にする気持の大切さを学び、それを生かしてよりよく学校生活を送れる生徒の姿を願って、息の長い単元展開をしてきた。相手に心地よい思いをしてもらうためにも「礼儀」は大切であること、相手に迷惑をかけないためにも「責任感」は大切であること、相手のことを考えながら自分で気づいて行動することが「協力」であること、というように常に相手を大事にする気持を中心にすえた展開をしている。本時では職場の方の行為やそのもとにある思いを考えることを通して、職場でも学校でも大切なことは同じであることに気づくことをねらった。

職場体験から生徒たちが学んできたことは、相手を思う、相手の立場や気持を考えて行動することの大切さである。このことは人権同和教育そのものであり、経験や体験を通して、また、息の長い単元展開を通じて生徒たちの意識を積み上げていくことができた。ただし、サービスの中には利潤の追求が含まれており、利潤を追求するために利用者に喜んでもらいたいという面があることを、生徒はわかっていたのではないかと思われる。この点が、職場体験学習と人権同和教育とを結びつける最大のポイントとなる。

職場体験では、利用者のことを考えた言動の大切さを学ぶ他に、もう一つの人間

関係を学べる。それは、職場の方と自分との人間関係である。単元展開の中に職場の方へのインタビュー活動を仕組んだことにより、その方の人間性があふれた回答をいただくことができている。本時でも自分が行ったインタビューの回答をもとに、発言をした生徒もいたが、単元展開全体を通じて職場の方とより親密な関係を持つことで経験や体験したことが学習に生きてくる。ただし、本時の場面で、職場体験学習を通して学んだことを、普段の人間関係作りに役立てていこうと生徒たちに意識させるためには、何らかの手立てが必要となってくる。

4 この事例から明らかになったこと

相手意識を中心にすえて単元展開を進めてきたが、職場体験学習において相手には2種類あること、それを、明確に区別して学習をすすめることが職場体験学習と人権同和教育を結びつけるためには必要である。一つは、利潤追求のための相手意識であり、もう一つは、損得を越えたところにある相手意識や同じ職場で働く仲間への相手意識である。

さらに、自分の職場体験に対する思いと、その自分に対して職場の方が関ってくださる思いに視点を当てることも効果的である。どのように生徒たちの職場体験学習に対する思いを高めておくか、どのような活動をさせることで生徒たちと職場の方との関りを深めることができるのかを練り上げていく必要がある。

5 来年度への課題

体験や経験を通じた人権同和教育が有効であることはより明らかになってきていると考える。本年度の東中学校の職場体験学習における人権同和教育の展開案を練り上げ、どの中学校でも実践可能な展開案にしていくことが必要である。

さらに、新たな人権同和教育の視点を組み込んだ活動の実践を数多く試み、評価し修正を加えていくことも大切である。

6 その他

なし